

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

Rotary
横浜旭ロータリークラブ



世界に希望を生み出そう

2023-24年度 RI会長／ゴードンR.マッキナリー
RI.D2590ガバナー／樋口 明
横浜旭RC会長／田川 富男



ウクライナ避難民支援



ポリオ撲滅運動
パキスタンにて

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日／12時30分～1時30分

2024年 6月12日 第2546回例会 VOL.55 No.35

- 司会 SAA 北澤 正浩
- 開会点鐘 会長 田川 富男
- 斉唱 我等の生業
- 出席報告

会員数	20名	本日の出席数	15名
本日の出席率	78.94%	修正出席率	73.68%

■本日の欠席者

中谷、二宮、佐藤(真)、宋

■オンライン出席者 福村、市川

■他クラブ出席者 新川(地区)

■お疲れ様岡田幹事／感謝の記念バッチ贈呈



■ニコニコBOX

田川 富男／ここでの例会も今期最終です。この一年を振り返りたいと思います。宜しくお願い致します。

岡田 隆／一年間ありがとうございました。

(私事で、本日が最終日です。)

安藤 公一／田川会長、岡田幹事、一年間お疲れ様でした。

新川 尚／田川会長、岡田幹事、一年間ご苦労様でした。

目黒 恵一／田川会長、岡田幹事、一年間お世話になりました。ありがとうございます。

関口 大樹／①先日は誕生日のお祝いをいただき、ありがとうございました。②田川会長、岡田幹事、本日の卓話よろしくお願ひします。

関澤 信吾／田川会長、岡田幹事、一年間お疲れ様でした。卓話楽しみにしています。

佐藤 勉／田川会長、岡田幹事、一年間ありがとうございました。

■「この1年を振り返って」幹事／岡田 隆

何もわからぬまま、幹事という大役を仰せつかりましたが、結局、何のお役にも立てず、田川会長の支えになるどころか、SAAの北澤さん他各委員長さんなどに助けていただきました事を、感謝とお詫び申し上げます。

この一年間、幹事としてできるだけ行事には参加するようにも調整してきたつもりですが、なかなかそれも果たせずに、来週の最終例会も欠席させていただくことも合わせてお詫びいた



します。

そんな中でもこの1年間、幹事の職に就かしていただいたことで、地区の様子、他クラブのご事情など知ることで、少しでもですがロータリーへの理解が深められたかなと思っておりました。

しかし、2、3か月ほど前から次年度の準備が始まり、次年度幹事の市川さんの仕事ぶりを見て、何もできていなかった事を更に認識させられて今日に至っております。

今回の反省を踏まえ、次年度からの北澤会長、五十嵐会長エレクトの仕事をじっくり勉強させていただき、今後のクラブ運営にしっかりと役に立てるよう努力することをお約束し、今年度の不甲斐なさをご容赦いただきたくお願いして私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

■この一年を振り返って 会長 田川 富男

今期で印象的なことですが、実は何と2023-24年度が始まる前の事です。去年の6月にスマホに一本の電話がありました。「もしもし」「来期の会長と聞いたけど、7月になったら戻っても良いかな目黒だけど」との音声が入って来ました。思わず「え」と答えると「みんな歓迎してくれるかな？」即答にて「全員で大の大歓迎ですよ」大声となりました。期に入る前に吉報をいただきました。合わせて市川会員からも佐藤勉さんを紹介され7月の新年度早々に、何と二人同時の入会式をさせていただきました。

早いもので余すところ、後2週間で今期も終

了出来る運びとなりました。会員の皆様に支えられて今日があります。また、前回の会長時は例会開催日より休会の日が多い会長だったと思います。それでも、会員の皆様に支えられて次年度に渡すことが出来ました。同様に今期も次年度に引き継ぐことができると思います。感謝申し上げます。

この一年間を経て、自分としては何かを残せた一年だったか考えております。今期の理事、役員を選択する時点にて北澤会員が進んでSAAを申し出て頂きましたことに感謝しています。そして、岡田幹事にも快諾して頂いたことも幸先の良い状況でした。それでも、岡田さんには無理を推してお願いした気持ちです。本来ならばロータリーの事をもっと熟知してから幹事に務めたいとの気持ちがあったとも想像していました。この事にも感謝しています。また、各委員長、副委員長にもロータリー精神で快諾していただきありがとうございました。自分としても、来期のクラブ運営には微力ながら協力させていただきます。

自分としても、今期が始まる前にて大改革をさせていただきました。改革の主原因は会員数の減少です。そして、月間の例会開催を4例会から3例会に変更する事でした。前期の安藤年度の後期にて理事や全会員の承認を頂き変更することが出来ました。当初は月に2回の例会数も考えておりましたが、他のクラブの状況を地区事務局にて確認で少数以下であり考えにくい事がわかりました。月3回に於いてもクラブ内の了解が必要であり暫定措置では済まないことも感じました。それはコロナウイルス感染がまん延時期では、月間休会と言う異常状態が長く続いた期間がすぎ例会の考え方も変化したいと思えます。

安藤年度では努力でコロナ以前の状況に戻して頂きました。しかしながら、会員の減少に置いては会員の皆様に重い負担を掛けさせたのも事実でした。計算上は当時の会員数（16名）



では卓話やフォーラムを3回以上のお願いする事は問題と判断致しました。そして、現状の例会と成りました。また、会員の減少はクラブ存続のための財源確保に影響を及ぼす事になりました。多少の会費を値上げさせて頂きました。皆さんにはご負担をかけさせました。

以前より、ロータリーの例会開催について色々意見がありました、開催会場の場所設定の件です。安藤年度については岡田会員の好意に甘えて岡田屋さんの会議室をお借りして例会を実施いたしました。いつまでも好意に甘えることも不本意との思いも有り会場移転が必要な時期と岡田屋さんの業務変更の時期が重なり移転させる事になりました。それでも、例会を実施出来る場所も簡単には見つからず苦慮しました。そして、食事が出来ないなどと色々問題点がありますが今現在にて会長卓話をしているジョイナステラス3コミュニティサロンを例会場として使用しています。その間の岡田会員には会場を提供していただきありがとうございました。

コロナ以来、存亡の危機である会員増強についても五十嵐増強委員長の強力的なリーダーシップの下でチャートを利用して会員の皆さんから増強が出来ない理由と増強する方法を科学的な手法で増強を進めていただきました。そして、横浜瀬谷ロータリークラブさんとの合同例会を中華街のローズホテルで開催され、入会希望者を募り、樋口明ガバナーをはじめ多くの人が参加して頂きました。また、日向彰さん、

関澤信吾さんが入会されました。その以前には衆議院議員の古川なおき先生が希望されたために、横浜旭ロータリークラブ細則を改正して特別会員と言う条項を新設して会員として迎え入れることができました。

現在も進行中ですが、年度末に問題が発生しました。旭ペットさんより打診がありました。今まで長期に渡り事務所としてお借りしていた旭ペットの倉庫を事業転換するとのこと。事務所として使用できる場所も簡単にも見つからず苦慮しておりました。またまた、岡田会員にお願いし事務局が使用可能な場所を提供していただきました。感謝のかぎりです。

でも、ロータリー会長として最悪な状態を8月30日に発生させる事になりました。その日はカバナー公式訪問の日に例会を休んでしまいました。公式訪問の日に休む会長など聞いたことがありません。その日は夫婦仲良くコロナウイルスに侵され発熱外来の門をくぐっていました。当日のために会長挨拶や会長報告を考えていました。北澤会長エレクトにはご迷惑をお掛け致しました。やはり今期は岡田幹事や北澤エレクトはじめ会員の皆さんのおかげで終了が出来たと感じる一年でした。日々感謝です。

■次週予告

7/3 第2回クラブ協議会

■ロータリーボイス

(世界で行動する人びとの体験談とストーリー)

▶使わないおむつと地域の課題がマッチング

投稿日: 8月14, 2023 投稿者: Rotary Japan

寄稿者: 西森やよい (高知東 RC 会員)

「高知おむつバンク」とは、「子どものおむつ離れによって余った未開封の紙おむつを地元の乳児院である高知聖園ベビーホームに寄付した」というロータリアンの経験から発案されたシステムです。

ああ、これは私だけの問題じゃないな

2016年のある時、自宅のクローゼットの中に、未開封のおむつがあるのを発見しました。



おむつを寄贈する西森さん（左）

購入したまま、しまい込んで忘れてしまったのだと思います。当時、私の息子は幼稚園の年長でおむつは既に卒業していたため、わが家にとっては全く不要のものとなっていました。そこで、親交のあった中島香織弁護士を通して、高知聖園ベビーホームへ寄付することに。中島さんは、居場所を見つけれない子どもたちにその場を提供する「みんなのひろっぱ」をつくった人で、後に「高知おむつバンク」の命名をしてくれた人でもあります。

当時、行政からの委託などによって、子育て家庭の支援や見守りを行う団体や事業者は、困窮する保護者から「紙おむつが足りない」「おむつを買うお金がない」というSOSを受けても対応できない、という実情がありました。一方、紙おむつをしまい込んだまま忘れてしまった私やママ友のような人たちもいるわけです。そこでこうした、子育てをする地域の人たちをつなぎ、「余っている紙おむつを集め、支援者を通じて必要としている子どもたちに届けるシステムをつくってはどうか」と考えました。

地区補助金事業としてプロジェクトを立ち上げちょうどその頃、高知東ロータリークラブ（RC）の次年度ロータリー財団委員長を務めるに当たり、どのような活動をするかクラブ内で協議していました。そこで、このおむつの寄付を何か形にできないか、と企画を提示。2017－18年度の地区補助金事業として、「高知おむつバンク立ち上げ支援プロジェクト」を実施することになりました。

プロジェクトを進めるにつれ、おむつバンクが地域社会の中でどういう役割を果たすことができるかが、見えてきました。当初、集めたおむつを乳児院で使ってもらおうと思っていましたが、児童家庭支援センターにヒアリングすると、子育て支援先の家庭などに直接配布したいという希望が上がりました。児童家庭支援センターの相談支援員が家庭を訪問する際、手土産

としておむつを持参することで、普段は支援員の訪問を拒否したり警戒したりする人でもおむつなら受け取ってもらえて、訪問がしやすくなるということです。おむつがなくて困っている家庭に「何か困ったことはない？」と声をかけながら、手と手を介して届けられることに意味があるということが、児童支援の現場から分かりました。おむつを寄付する人とおむつを受け取る人、子育て世代同士で助け合いができる、つながりができる、おむつバンクでそれができると私たちは確信しました。

2017年12月16日、「高知おむつバンクキックオフイベント～シンポジウム『困っている子どもたちについて考えよう』～」を開催。高知おむつバンクの運営事務局を引き受けてくださった高知聖園ベビーホームに対し、高知おむつバンク規約を整え、紙おむつ寄付募集のチラシ、寄付者へのお礼用タオルと共に、最初の紙おむつ1袋を寄贈することで、高知おむつバンクの立ち上げが始まりました。

地域社会で持続される「おむつバンク」

その後、高知聖園ベビーホームは、マルシェを自主開催したり、地域のイベントで「高知おむつバンク」のブースを毎年出展するなどして、粘り強い広報活動を展開しつつ、事業を継続。また、県内の地方公共団体や社会福祉協議会とも連携し、寄付された紙おむつを活用する支援についての認知度を高める活動も続けています。

高知おむつバンクは、「イクハク」という子育て支援サイトから「2020年度高知県ベスト育児制度賞」で表彰されました。22年6月には、おむつなどの衛生用品メーカーのユニ・チャーム（株）が、香川県観音寺市と協働して、子育て支援センターに「つながるおむつボックス・つながるおむつバンク」を設置・運営する実証実験を開始。今年3月に香川県主催の「令和4年度みんな子育て応援団大賞」で香川県知事賞を受賞しました。

このように、ロータリーの取り組みをきっかけに生まれた「高知おむつバンク」は、素晴らしい養育者と多くのご支援に恵まれたことで小さく成長し、さらなる発展のステージへと導かれつつあります。2018年の当クラブ創立50周年記念式典大会テーマは「未来に育む」でした。当クラブが積み重ねてきた奉仕の理想が、今後も地域に根付いた「おむつバンク」に引き継がれ、さらに多くの方々にて育てていただくことを願ってやみません。